

EU酪農・乳業の現状と展望

2019年11月26日

(独) 農畜産業振興機構

調査情報部 前田 絵梨



EU酪農・乳業の現状と展望

- ①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ
- ②EUの酪農の概要
- ③乳製品需給の動向
- ④EUの貿易政策など
- ⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）
- ⑥その他のトピックス

今回は、EUの酪農・乳業の現状と展望について、2019年5月に開催された欧州乳製品輸出入・販売業者連合（EUCOLAIT）総会でのプレゼン内容などを交えて報告します。

（※）EUCOLAITは、EUにおける乳製品の輸出促進のための組織であり、乳製品輸出入業者、乳業メーカー、酪農乳業関係団体などで構成されています。

EU酪農・乳業の現状と展望

①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ

②EUの酪農の概要

③乳製品需給の動向

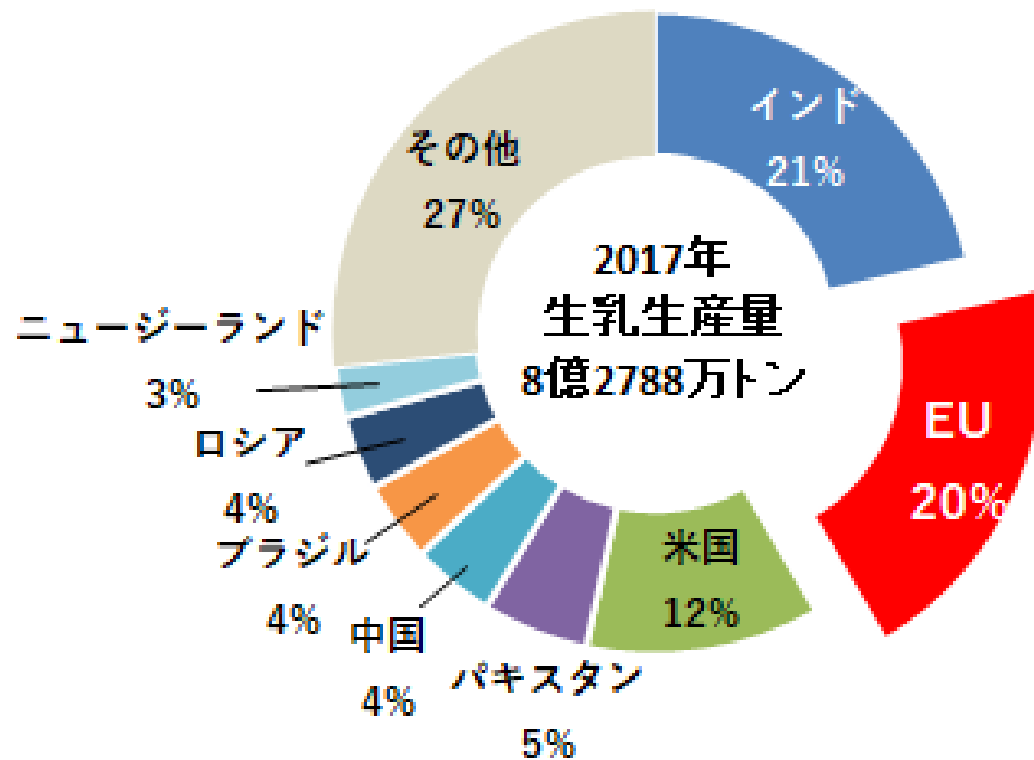
④EUの貿易政策など

⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）

⑥その他のトピックス

EUは世界有数の生乳生産地域

世界の生乳生産に占める国・地域別シェア

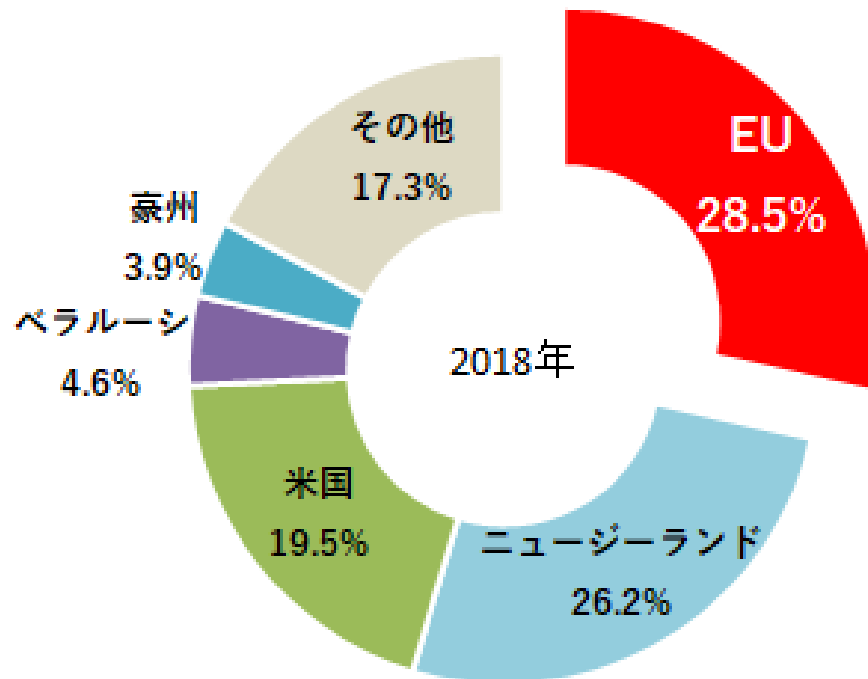


資料:FAO

注:生乳は、乳牛、水牛、ラクダ、山羊、羊のもの

EUは世界最大の乳製品輸出地域

世界の乳製品輸出に占める各国・地域のシェア
(生乳換算)



資料: 欧州委員会「MMO meeting reports」

EU酪農・乳業の現状と展望

①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ

②EUの酪農の概要

③乳製品需給の動向

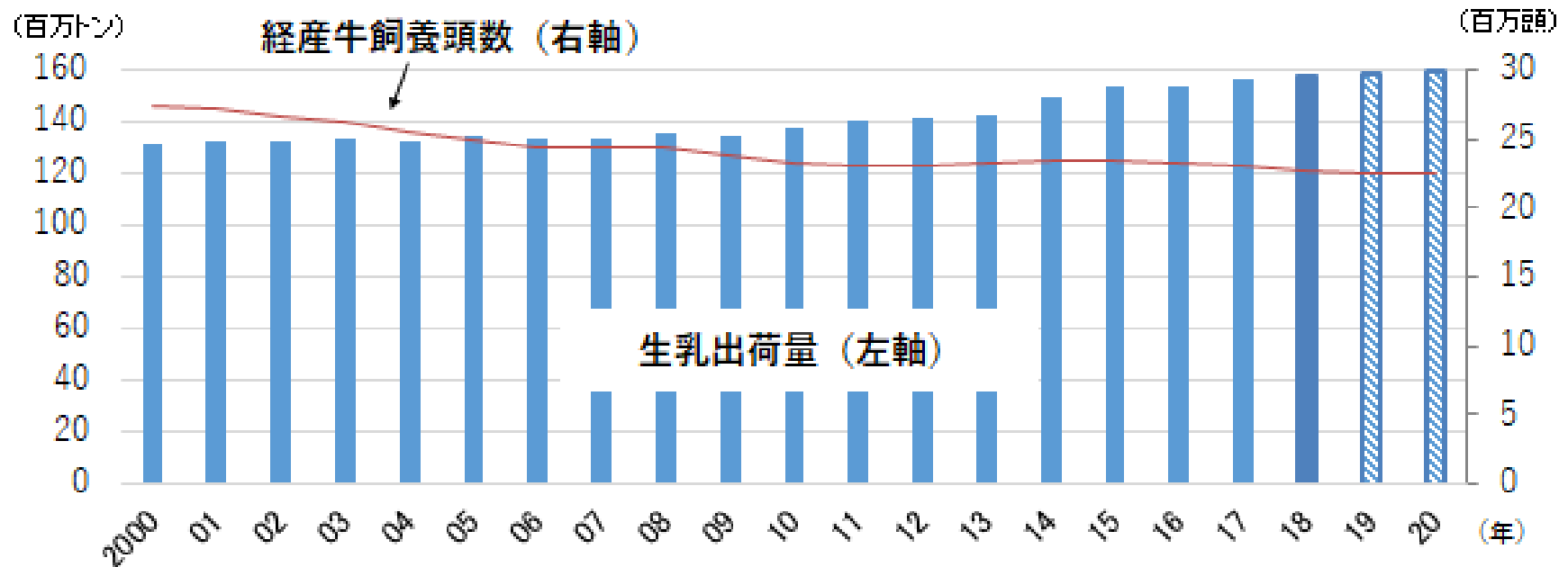
④EUの貿易政策など

⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）

⑥その他のトピックス

生乳出荷量は増、飼養頭数は減

生乳出荷量と経産牛飼養頭数の推移



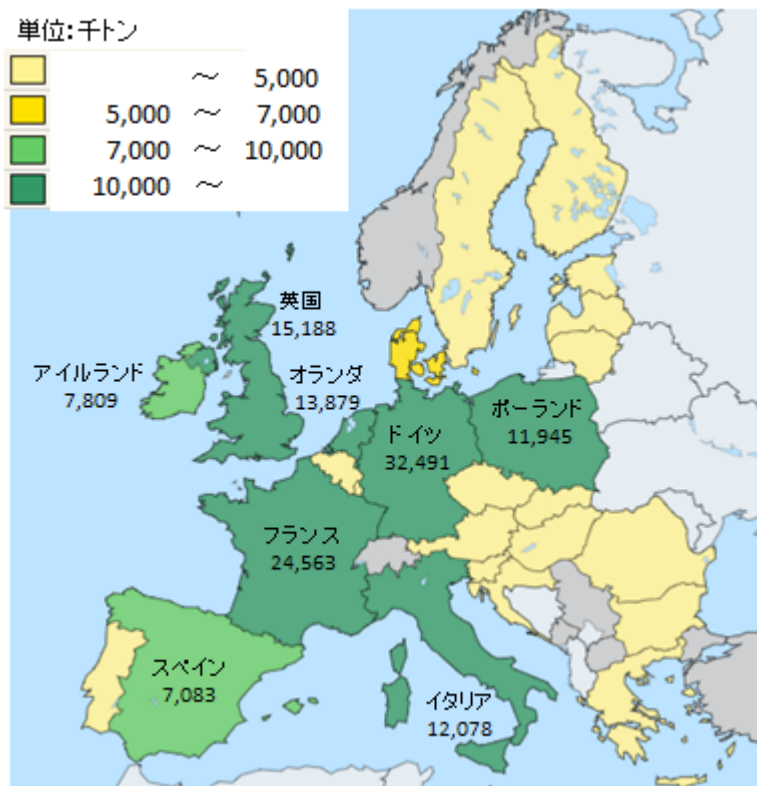
資料：欧州委員会「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」

注1：2019年以降は予測値。

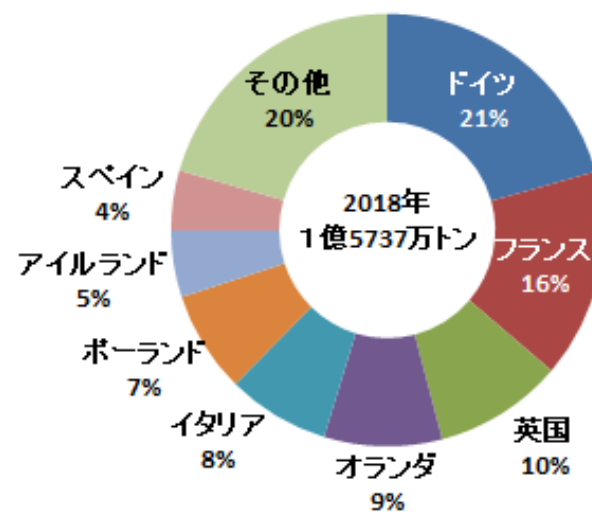
注2：経産牛飼養頭数は、各年12月時点の飼養頭数である。

上位8カ国の生乳出荷量シェアは8割

国別の生乳出荷量(2018年)



EUの生乳出荷量に占める各国のシェア

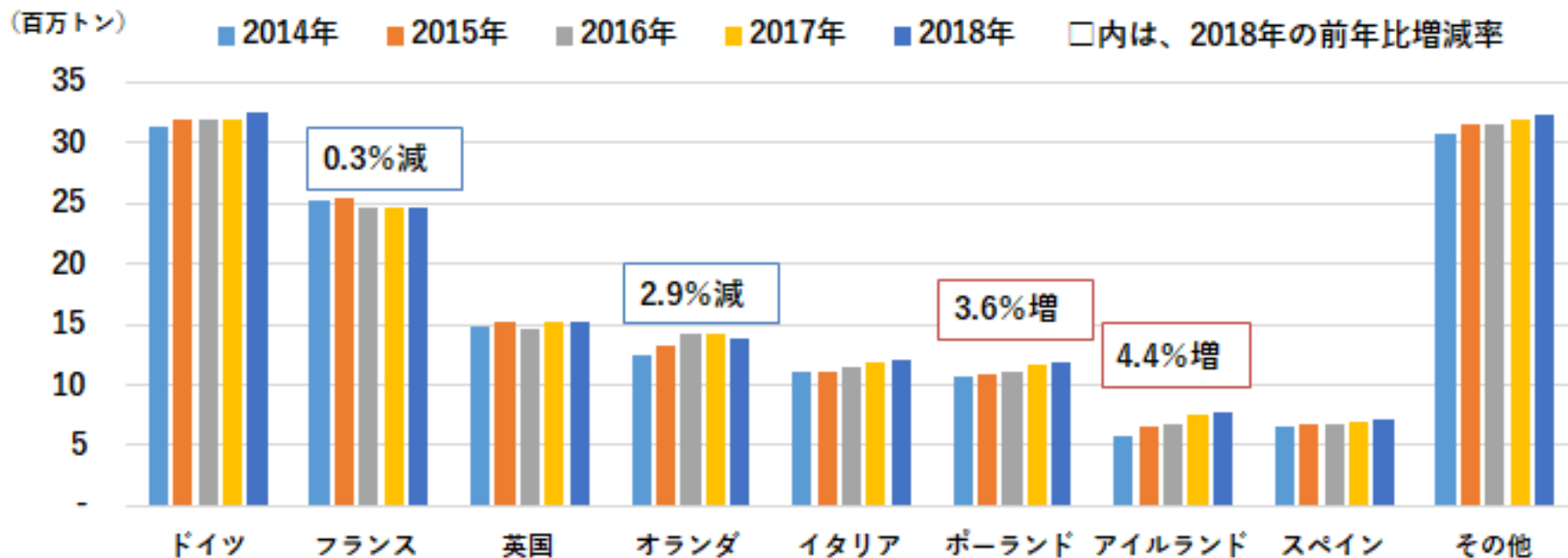


資料: 欧州委員会「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」

資料: 欧州委員会「Eurostat」、「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」
注: 図中の8カ国の数値は、「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」のデータを使用。

ポーランド、アイルランドで増産傾向が強い

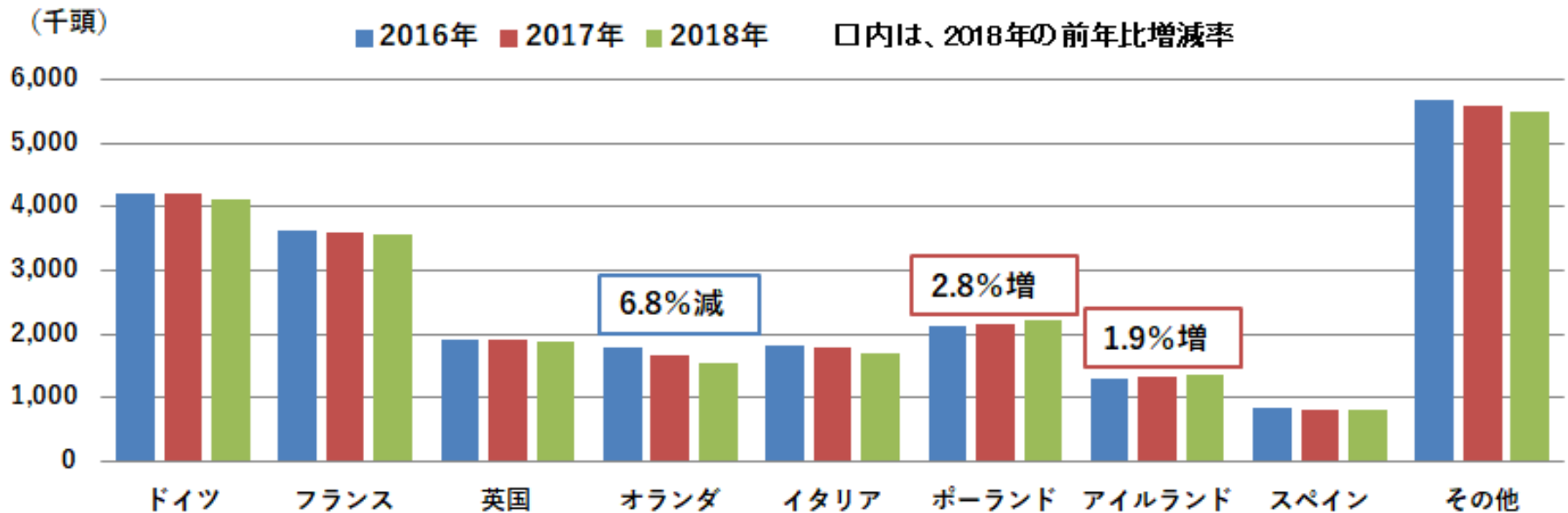
主要国の生乳出荷量の推移



資料: 欧州委員会「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」

ポーランド、アイルランドで飼養頭数が増加

主要国の経産牛飼養頭数



資料: 欧州委員会「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」

注: 調査時点は、各年12月

EU酪農・乳業の現状と展望

①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ

②EUの酪農の概要

③乳製品需給の動向

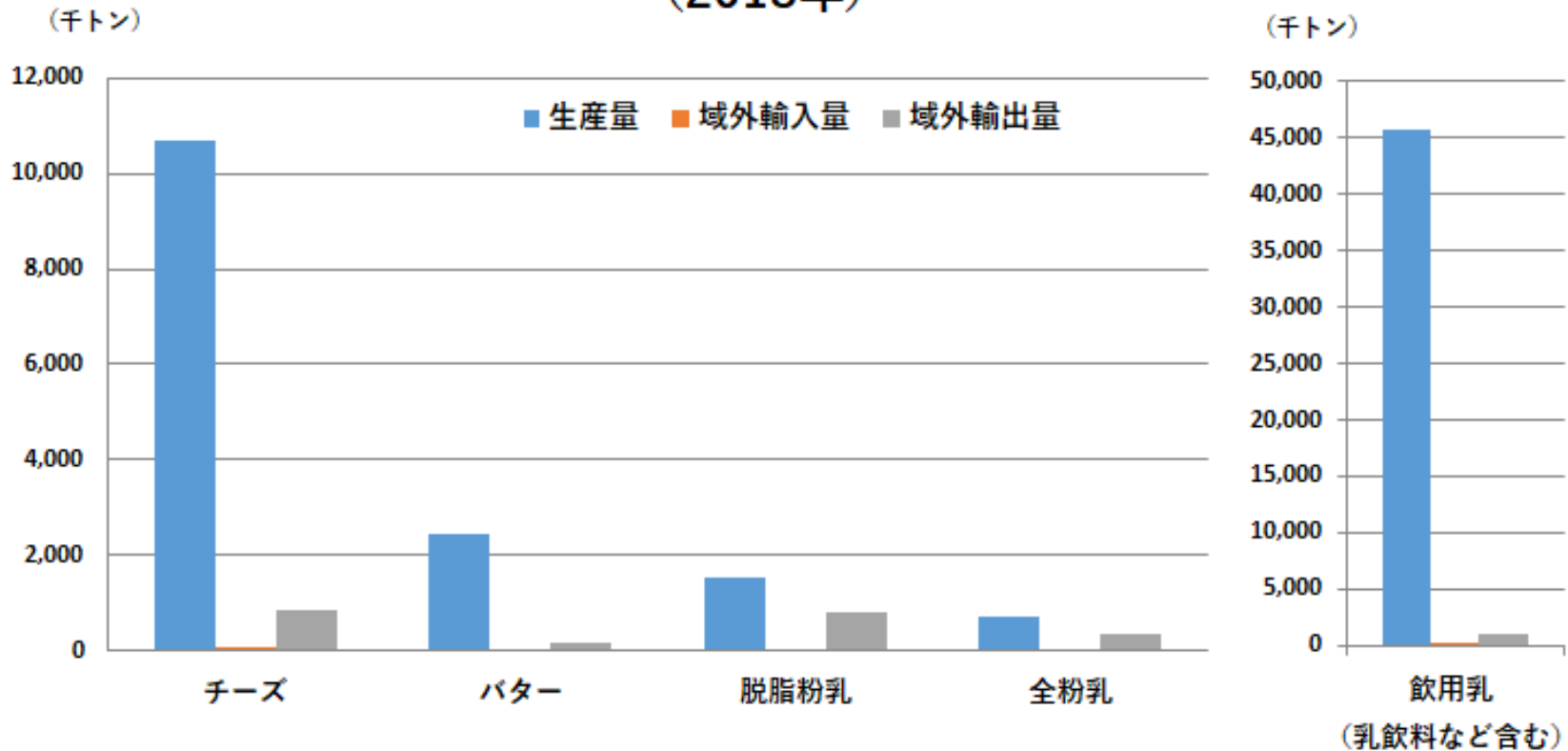
④EUの貿易政策など

⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）

⑥その他のトピックス

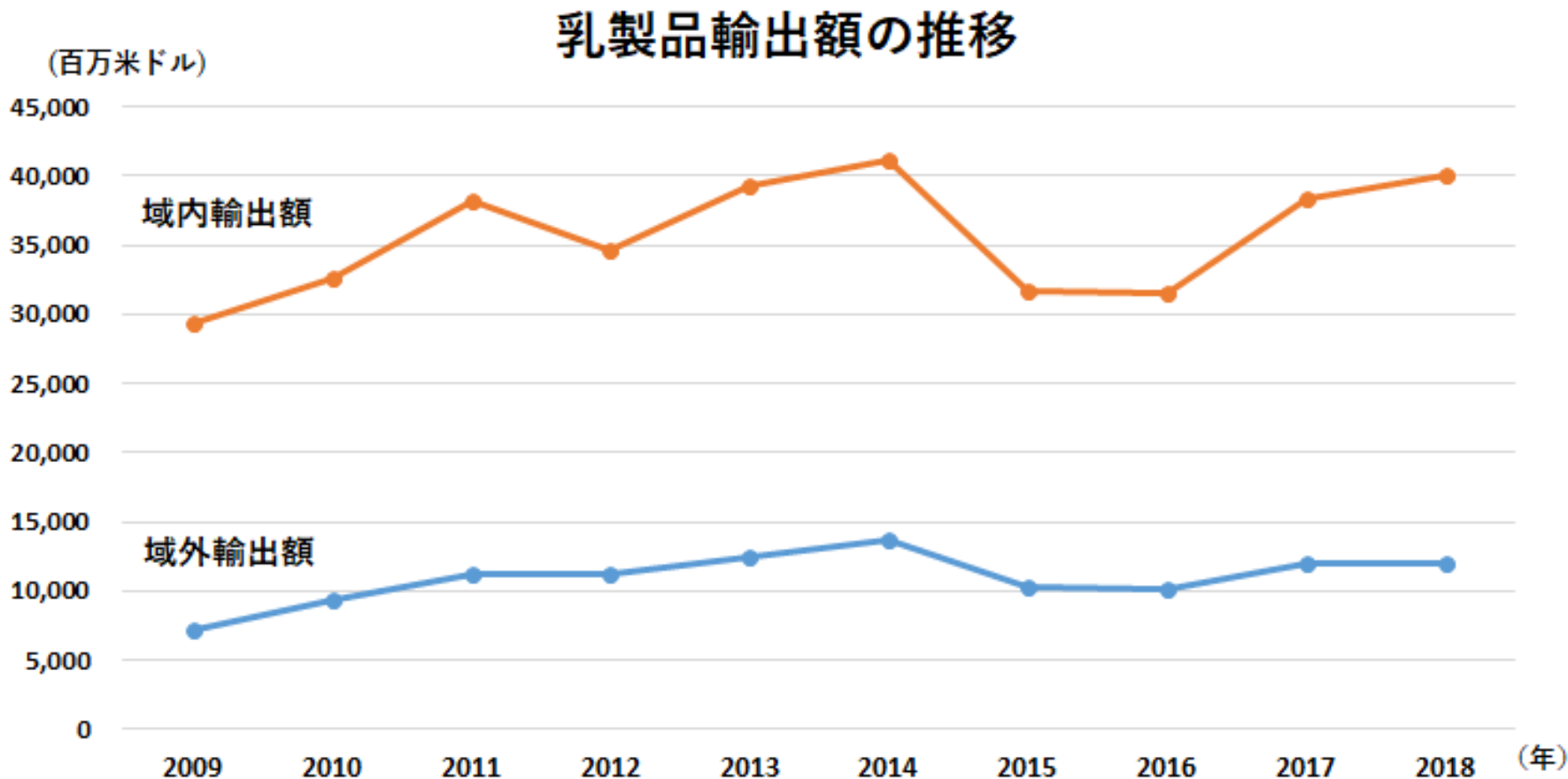
EU産乳製品のほとんどがEU域内で消費

牛乳・乳製品の生産・域外輸入・域外輸出量
(2018年)



資料: 欧州委員会「Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets In 2019 And 2020 (Autumn 2019)」

域内輸出額は域外輸出額の3倍超



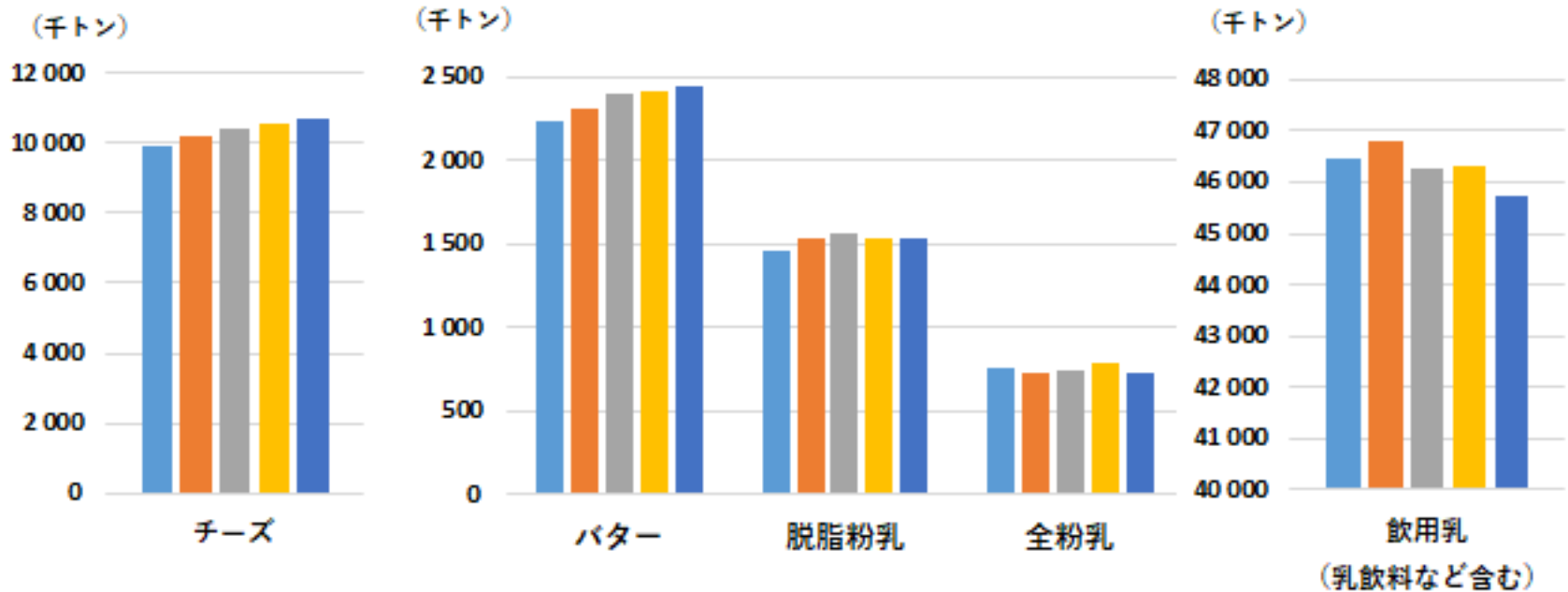
資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコードは、0401~0406

チーズが増加、飲用乳は減少

牛乳・乳製品の生産量の推移

■ 2014年 ■ 2015年 ■ 2016年 ■ 2017年 ■ 2018年

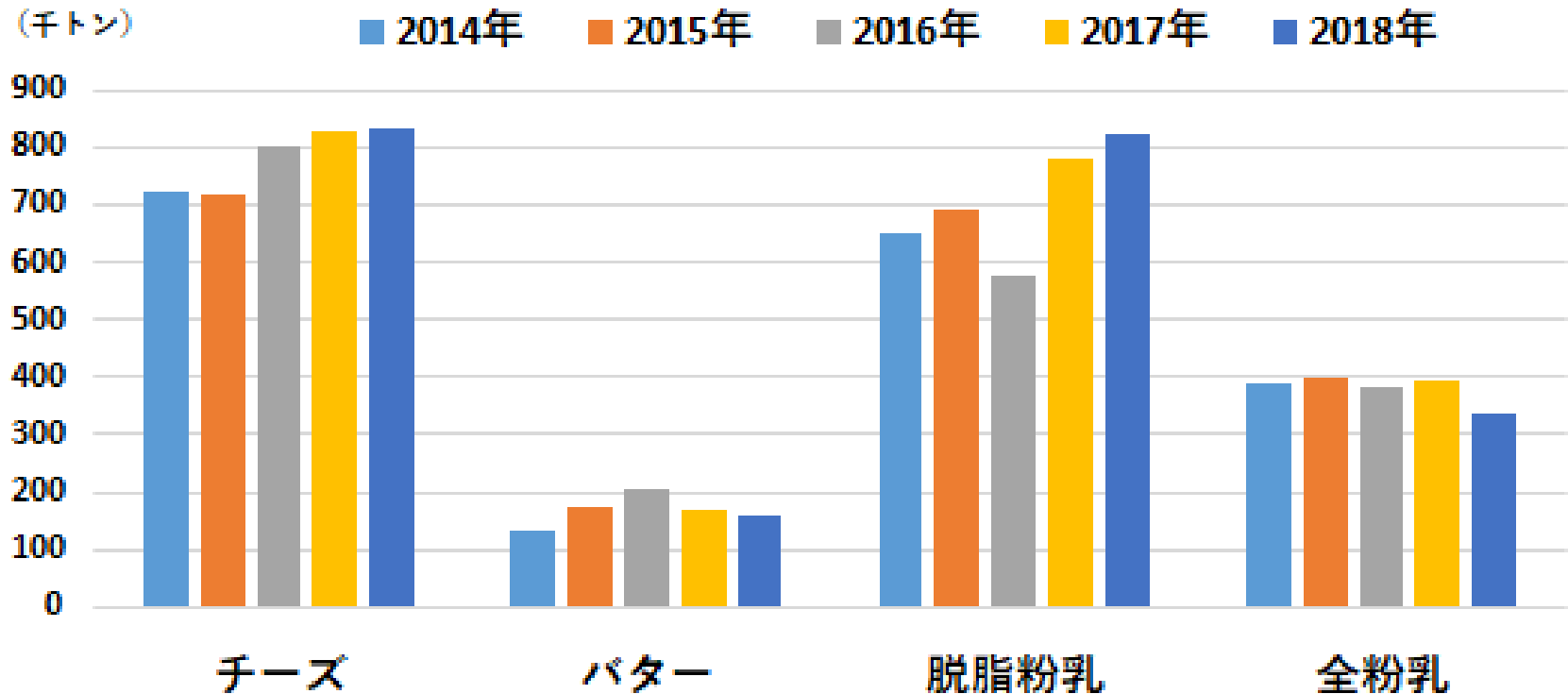


資料: 欧州委員会「Short Term Outlook for EU Agricultural Markets in 2019 and 2020 (Autumn 2019)」

注: バターには、バター換算したバターオイルなどを含む。

乳製品の輸出はおおむね好調

主な乳製品の輸出量の推移



資料: 欧州委員会「Short Term Outlook for EU Agricultural Markets in 2019 and 2020 (Autumn 2019)」

注: バターには、バター換算したバターオイルなどを含む。

EU酪農・乳業の現状と展望

- ①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ
- ②EUの酪農の概要
- ③乳製品需給の動向
- ④EUの貿易政策など
- ⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）
- ⑥その他のトピックス

米国からEUへの報復関税の実施(2019年10月18日)

2019年10月18日より、米国のEU産品への報復関税が発動。

追加関税対象となるEU産品・税率

- フランス、ドイツ、スペイン、英国の大型の民間航空機: 10%
- EU28カ国の農産品およびその他の製品: 25%

なお、対象となる農産品およびその他の製品は、国ごとに品目が指定されている。

★米国は、チーズおよびバターの最大の輸出先

EUの貿易面での成功を支える4つの要因

- ① 共通農業政策
(CAP : Common Agricultural Policy) の見直し
- ② 世界的な需要の拡大
- ③ 品質が高いと評価を受けるEU産の食品
- ④ 貿易政策、貿易協定およびプロモーション

カナダとの貿易協定 (CETA) 2017年9月 暫定発効

・チーズについて、発効から段階的に増加し、6年目に1万8500トンとなる無税枠を新たに獲得

・58製品のGIチーズ^(注)が、カナダで保護

日本との経済連携協定 (日EU・EPA) 2019年2月 発効

・チーズ、バター、脱脂粉乳に関税割当

・27製品のGIチーズ・GIバターが、日本で保護

メキシコとの貿易協定

・2000年に発効した協定を拡充することを、2018年4月に大枠合意。現在、協議中。

・大枠合意されている内容の一つに、EU産食品・飲料の関税削減が含まれる。

・57製品のGI乳製品が、メキシコで保護

ベトナムとの貿易協定

・2019年6月 EU・ベトナム間でFTAについて署名

・現在20%までの関税率で取引されているEU産乳製品が、一部無税になる。

・22製品のGIチーズが、ベトナムで保護

中国との貿易交渉（GI関係）

- ・2019年11月6日、二国間協定の交渉が妥結。
- ・EUの100品目のGI（うち14品目がチーズ）が中国側で、中国の100品目のGIがEU側で保護される。
- ・中国は、米国に次ぐ第2位の農産食品（Agri-Food：ワインや蒸留酒を含む）の輸出先（輸出額ベース）。
- ・欧州委員会は、2020年内の協定発効を見込んでいる。

EU酪農・乳業の現状と展望

- ①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ
- ②EUの酪農の概要
- ③乳製品需給の動向
- ④EUの貿易政策など
- ⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）
- ⑥その他のトピックス

EUのGI食品のうちチーズは約2割

2018年8月時点の情報によると、

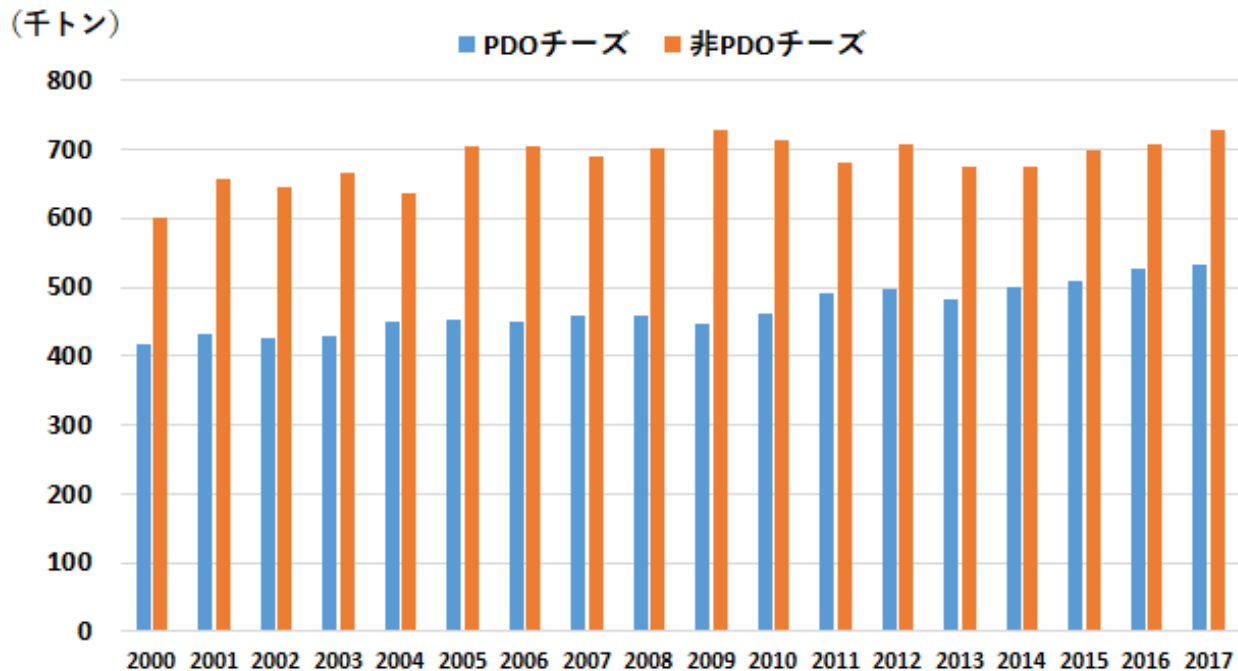
- ・GI制度で保護された商品は、3389商品
- ・ワインが5割以上（1763商品）
- ・食品が4割（1374商品）
- ・チーズは235商品が登録されており、食品の約2割を占める
- ・登録数が最も多いのはイタリアで900商品を超える
- ・フランスも800商品近く

EUのGI制度の概要

EUのGI制度名称・ロゴマーク		要件（認定基準）の概要
原産地呼称保護 (PDO : Protected Designation of Origin)		製品と産地の結び付きが重視され、生産工程（生産、加工、調製）のすべてが一定の地理的領域内で行われている。
地理的表示保護 (PGI : Protected Geographical Indication)		生産工程（生産、加工、調製）の少なくとも一つが地理的領域内で行われている。

イタリア産チーズは、4割がGI(PDO)チーズ

イタリアのチーズ生産量の推移



資料: 欧州委員会、CLAL.it

注1: イタリアで生産されるGIチーズのうち、PGIチーズの統計は不明。

注2: PDOチーズの生産量は、CLAL.itのデータ。

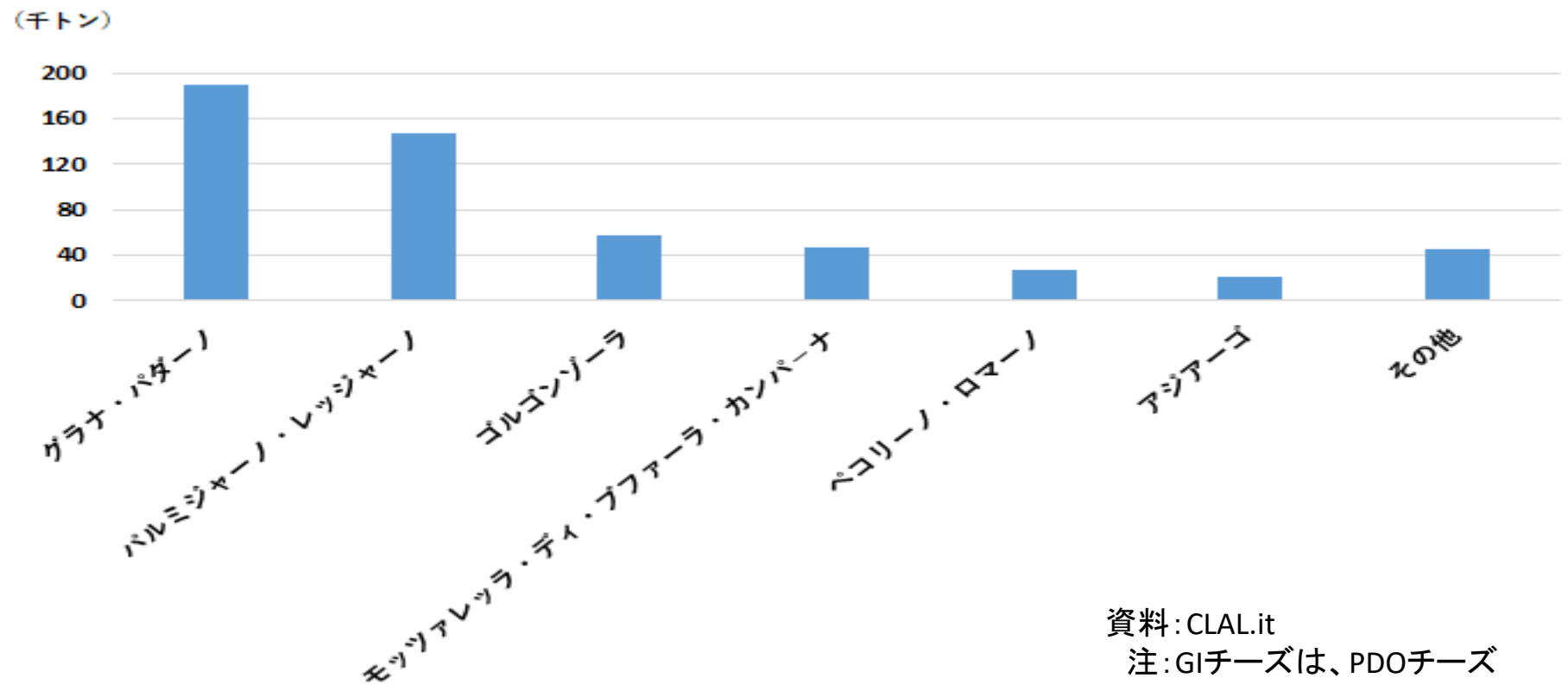
注3: 非PDOチーズの生産量は、欧州委員会のチーズ生産量からCLAL.itのPDOチーズ生産量を減じて算出。



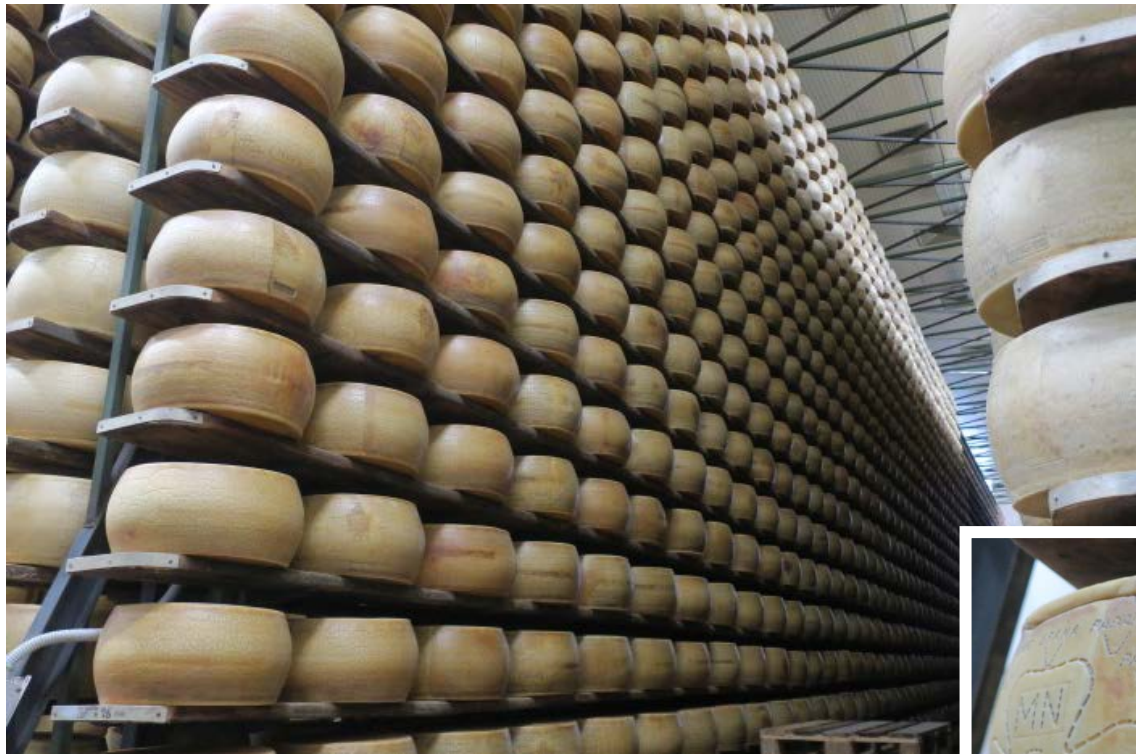
チーズ、ハム売り場(イタリア)

GI (PDO) チーズのうち、6割が
グラナ・パダーノ、パルミジャーノ・レッジヤーノ

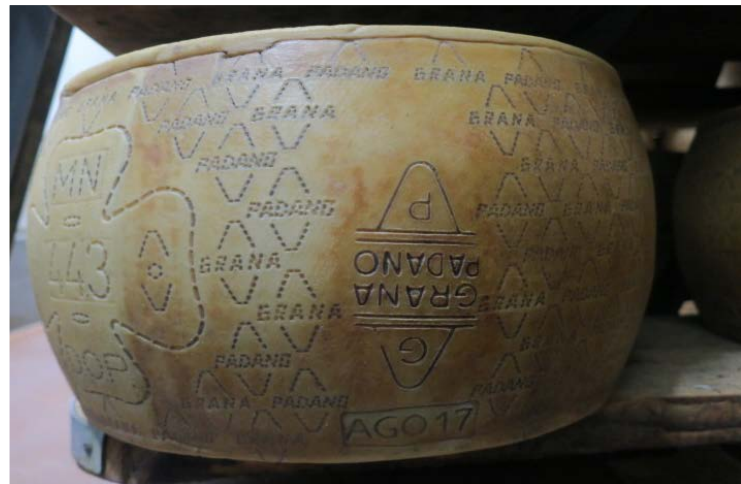
イタリアのGI (PDO) チーズ生産量 (2017年)



資料: CLAL.it
注: GIチーズは、PDOチーズ



グラナ・パダーノの熟成庫



グラナ・パダーノは、時間をかけて熟成させるハードチーズである

パルミジャーノ・レッジャーノ

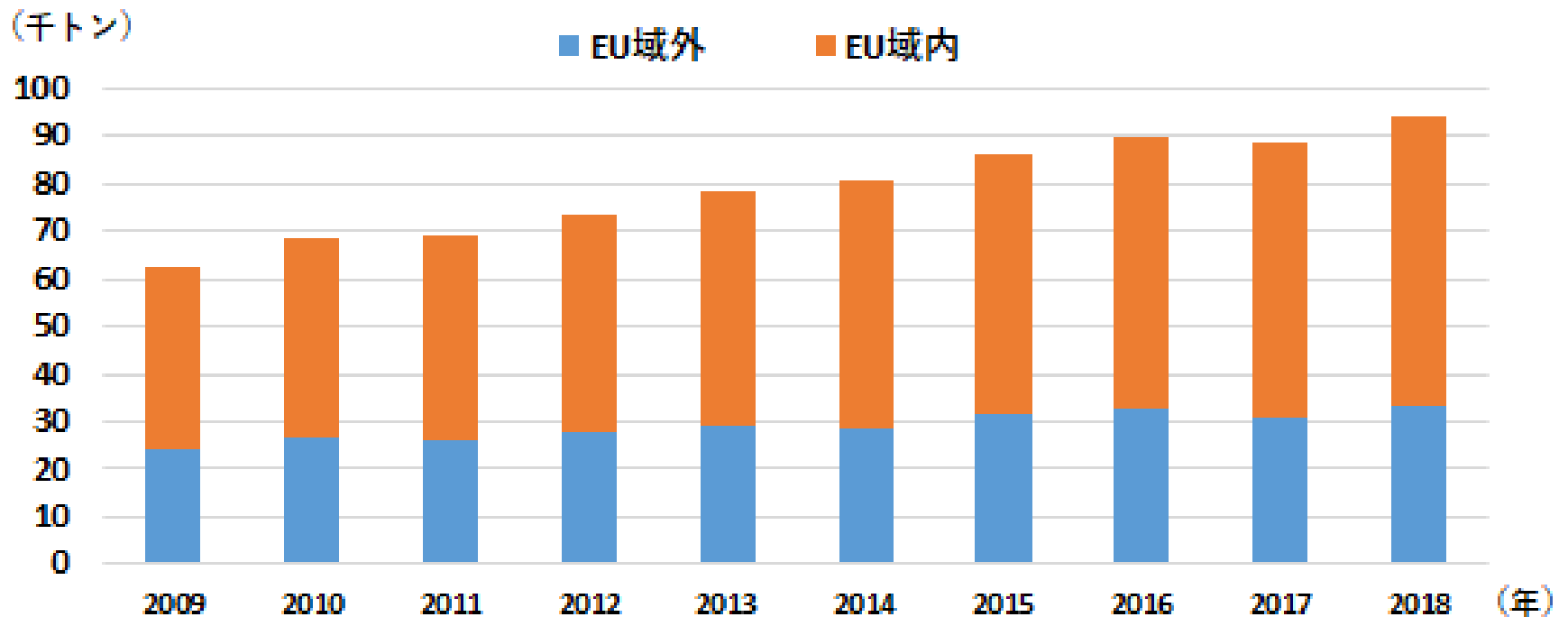


グラナ・パダーノ



GIチーズ輸出量は、増加傾向で推移

グラナ・パダーノ、パルミジャーノ・レッジャーノ
輸出量の推移



資料: CLAL.it

イタリアの常温チーズ



EU酪農・乳業の現状と展望

- ①世界におけるEU酪農・乳業の位置づけ
- ②EUの酪農の概要
- ③乳製品需給の動向
- ④EUの貿易政策など
- ⑤EUの地理的表示保護（GIチーズ）
- ⑥その他のトピックス
 - ✓有機生乳の生産について
 - ✓乳代替品について

欧州委員会が定める「有機」のルール

有機農業

(農薬や化学肥料などの化学物質の使用を制限)

最善の環境対策、高い生物多様性、天然資源の維持、高い動物福祉(アニマルウェルフェア)基準の適用を組み合わせた農場管理・食品生産の方法

市場における特定の需要に応えると同時に、環境、アニマルウェルフェアおよび地域の発展に貢献する公共財

(欧州理事会規則より)

EU内で生産される食品が有機製品と認められる要件

[家畜に関する例]

- 家畜に100%有機で生産された飼料を給与すること
- 高いアニマルウェルフェアを順守すること

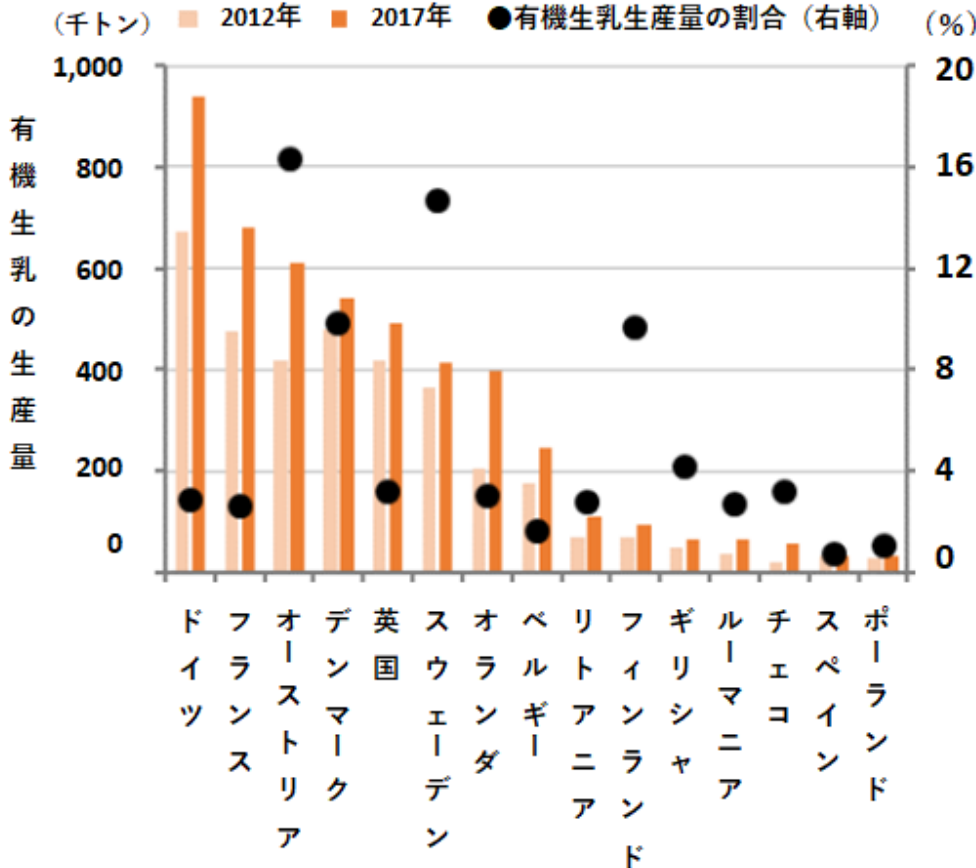
・
・
・



有機製品のロゴ
資料: 欧州委員会

有機生乳生産量は増加傾向で推移

加盟国別の有機生乳の生産量の推移および
生乳に占める有機生乳の生産量の割合



の 生 乳 に 占 め る 有 機 生 乳 生 産 量 の 割 合

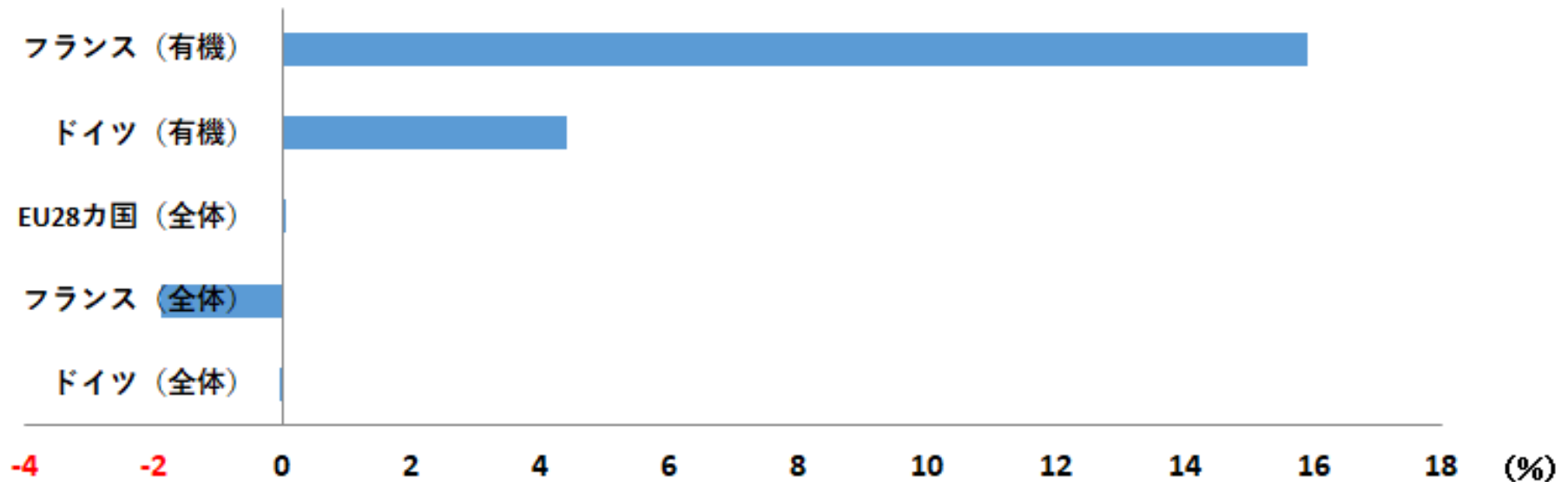


有機の飲用乳(オランダ)

資料: 欧州委員会「Organic farming in the EU」
注: 有機生乳生産量の割合は2017年ベース

有機生乳の出荷量が増加

生乳出荷量の対前年増減率 (%)
(2019年第1四半期)



資料: 欧州委員会、欧州乳製品輸出入・販売業者連合

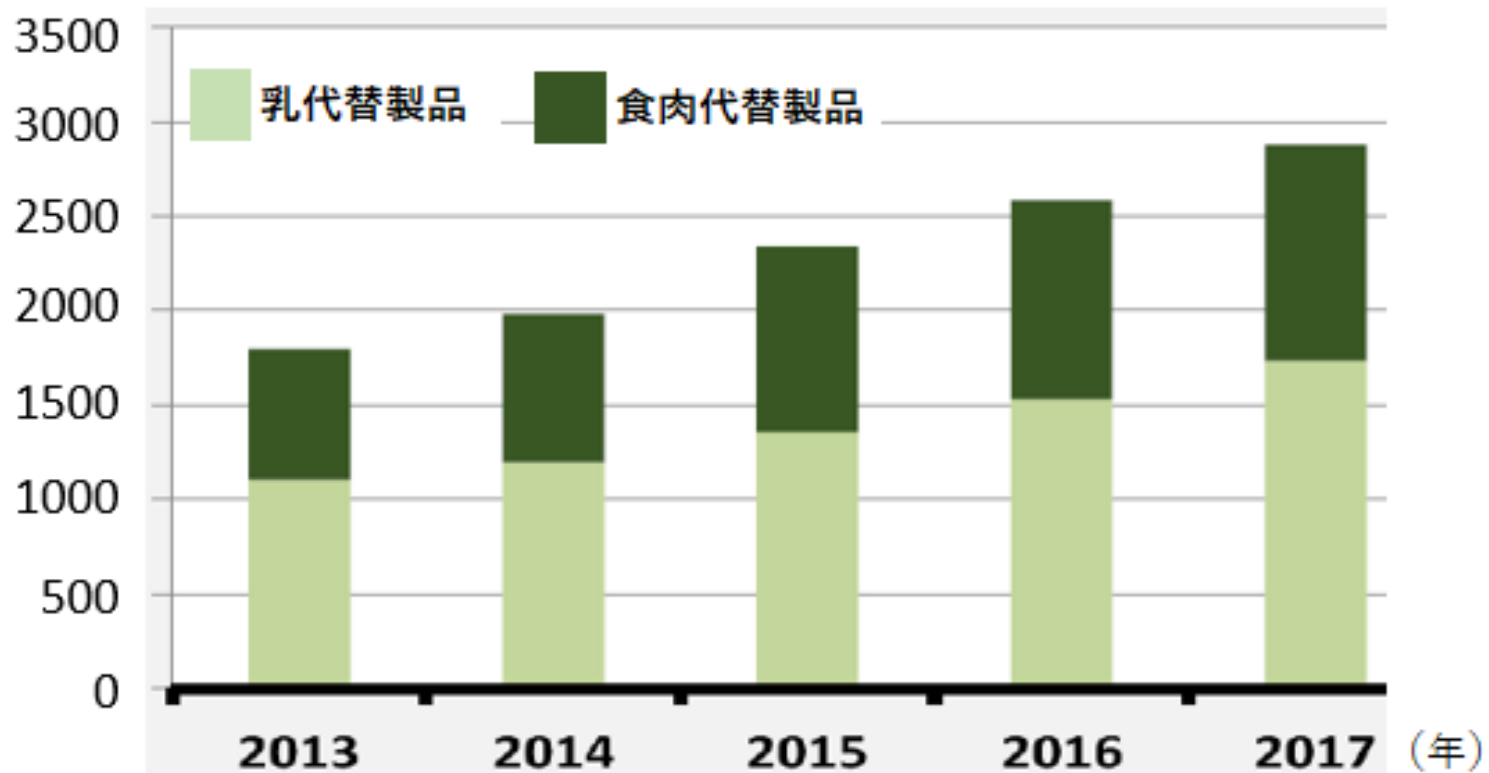
注1: EU28カ国、フランス、ドイツの生乳出荷量全体の前年増減率は、欧州委員会のデータより算出。

注2: フランスおよびドイツの有機生乳生乳出荷量の前年増減率は、欧州乳製品輸出入・販売業者連合総会(2019年5月)での報告内容。

牛乳・乳製品の代替市場は年11%増で拡大

EUにおける食肉と牛乳・乳製品の代替製品の売上高の推移

(100万ユーロ)



資料：欧州委員会「REPORT FROM THE COMMISSION TO THE COUNCIL AND THE EUROPEAN PARLIAMENT “on the development of plant proteins in the European Union”」



さまざまな種類の乳代替品が並ぶ(英国)



ビーガン向けの植物由来のチーズ代替品(イタリア)

今後の発展を左右する要因

- 促進要因
 - 生乳出荷量の増加
 - 乳製品輸出の拡大
 - 貿易交渉を通じた輸出環境改善（GIの保護や関税削減）
- 阻害要因
 - 環境規制（現在は頭数減を遺伝的改良でカバー）
 - 乳代替品
 - 米国による追加関税

ご清聴ありがとうございました。

今回の情報は「畜産の情報」2018年12月号および2019年8月号に掲載しております。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ (<https://www.alic.go.jp>) の「メールマガジン登録」からご登録ください。

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。